

平成27年度キャリア教育・職業教育推進事業実施報告書

1 研究のテーマ

「社会的・職業的自立に必要な資質能力（「基礎的・汎用的能力」）を育成するキャリア教育について」

2 研究の目的

- ア 多様な進路希望に対応する、類型コース選択制カリキュラムの編成を行い、将来を見据えたコース・科目選択を行うことで、自ら主体的に判断してキャリアを形成する上で必要な学力を高める。
- イ 学校外の社会と関わる機会を増やし、多様な他者の考え方や立場と接することで自他を理解することにより、コミュニケーション・スキルや課題対応能力の向上を図る。
- ウ 地域社会等との関わりの中で自己理解を深化し、自己の役割を理解し、物事を前向きに考えて主体的に行動する態度を育てる。

3 研究の内容と評価

[評価欄 A:よくできた B:概ねできた C:あまりできなかった D:できなかった]

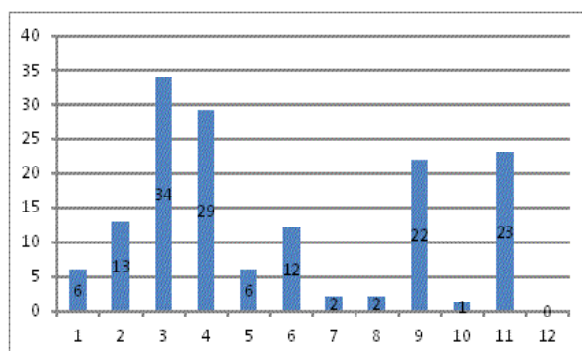
	実践研究内容	評価
第1年次	(1) キャリア教育に関わる学校設定教科・科目の開設	
	○検討会議の開催（6回） ・当該学年団及び教務部・進路指導部と検討し、計画を作成。 ・学校設定科目「産業社会と人間」の目標、学習内容、指導方法及び評価方法をまとめた。	A
	(2) 高等学校キャリア教育の全体計画の策定	
	○連携会議の開催（2回） ・七飯町内の小学校長・中学校長と七飯高等学校長による連携会議を開催し、高等学校におけるキャリア教育に関する意見交換を行った。会議の内容を参考にし、七飯高校におけるキャリア教育の全体計画を策定した。	B
	(3) 各教科・科目のシラバスの改善・充実	
	○先進校の視察調査 ・12月に教務部長が、十勝管内の高等学校を訪問し、生徒の多様な進路実現に対応した教育課程のあり方とシラバスの改善の参考とするための視察を行った。シラバス様式や教育課程の効果的な編成についての情報交換を行い、視察内容のまとめを校内研修で報告した。 ＜視察学校名及び対応者＞ 北海道広尾高等学校 佐久間 賢一 教諭 北海道鹿追高等学校 杉本 修 教諭	A
	○キャリア教育に関する校内研修会の開催 ・就業状況調査の結果分析を基に全体研修を行った。「本道教育の改善に資するアンケート調査結果」（H26道教委）により示された企業が求める資質・能力と、本調査の結果である生徒が求める資質・能力を比較し、学校が育てなくてはならない資質・能力について考察した。また、これらを踏まえて、次年度の事業計画についての意見交換を行った。	B
	○シラバスの新様式の作成 ・キャリア教育推進委員会と教務部が連携し、「基礎的・汎用的能力」の観点を踏まえて育成すべき資質・能力をどのように学ばせるかを配慮したシラバスとなるよう、様式を変更した。	B
	○担当者による教科・科目のシラバスの作成 ・教科担当者が、新様式のシラバスを作成した。	B

(4) 就業状況調査の実施	
○調査の実施 ・調査対象となる卒業生163名に対して調査を実施した。(回収率38.0%)	C
○分析の実施 ・キャリア教育推進委員会と進路指導部が連携して調査の分析を行い、運営指導委員会において資料を配付するとともに結果を報告した。	B
(5) キャリア教育に係る取組の実施	
○インターンシップの実施 ・第2学年の生徒119名全員を対象に、地域の37事業所等にて2日間のインターンシップを実施した。年度途中からの実施だったため、今年度は「実習ノート」の活用を図ることはできなかった。	A
○キャリア教育講演会の実施 ・2年生114名全員を対象に実施した「地元企業の説明会」において、卒業生1名が体験談を交えた講演を行った。	B
○進路見学会の実施 ・1、2年生233名全員を対象に「進学ガイダンス」を実施し、大学11校、短大6校、専門学校48校の説明を聞く機会を設定した。	C
○学校評議員へ事業成果等の報告・評価 ・1月実施の学校評議員会において報告を行った。	C
○運営指導委員会の開催 ・2回開催(12月、2月)。就業状況調査の結果分析に基づいて、来年度の事業実施計画を検討した。	B

4 研究の成果

- (1) 学校設定科目の検討に当たって、科目の目標等に対する共通認識を図ることができ、教職員全体で教科担任をフォローする体制を構築することができた。
- (2) 小学校長及び中学校長との連携会議により、高校で育成しようとする能力についての各学校段階における取組状況を確認することができ、効果的なキャリア教育の全体計画策定につながった。
- (3) 先進校の視察調査において、効果的な教育課程の編成やシラバスの活用についての情報交換を行うことで、生徒の多様な進路実現に対応した教育課程のあり方についての理解が深まった。また、実際に使用しているシラバスの活用状況についての課題等を参考に、シラバスの改善を行うことができた。
- (4) 就業状況調査の結果分析に関する校内研修の実施により、学校が育てなくてはならない資質・能力について理解が深まり、次年度の本事業の実施に向け、教職員全体が共通認識をもって取り組む体制が構築できた。
- (5) 卒業生を対象とした就業状況調査を実施し、本校卒業生が高校時代に身に付けたと考えている(身に付けられなかった)資質や技能、職場で求められていると考えている資質・技能等について教職員の理解が深まり、今後の学習指導・進路指導を計画立てる上で大いに参考となった。

就業状況調査＜質問9＞ 高校時代に身に付けることができた資質・技能（3つまで）



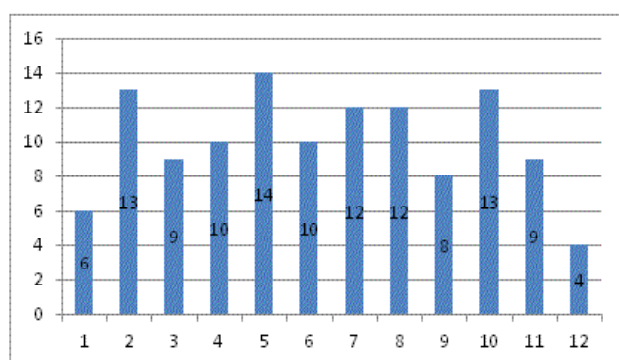
- 1 専門的な知識や技能
- 2 読み書き計算など基礎・基本的な知識や技能
- 3 コミュニケーション能力
- 4 前向きに考える力、忍耐力
- 5 原因を追究したり、課題を発見する力
- 6 働く意義や役割の理解
- 7 物事を論理的に考える力
- 8 新たな発想を考える力
- 9 意欲をもって取り組む態度
- 10 勤労観・職業観
- 11 言葉遣いやマナー、身だしなみ
- 12 その他

- (6) 2年生119名全員を対象とした2日間のインターンシップでは、「自分の将来を考える上でよい経験となった」「働くことの大変さがわかった」「社会での礼儀やマナーについて知ることができた」など、将来社会人として働く上で重要なことを多くの生徒が学ぶことができたと考えており、望ましい職業観・勤労観を育み、就業意識を高めることができた。
- (7) 1、2年生233名全員を対象とした「進学ガイダンス」では、実施後のアンケートにおいて、1年生の68%、2年生の81%が「学校の説明内容についてよく理解できた」、1年生の72%、2年生の76%が「大いに進路の参考になった」と回答するなど、キャリア意識の高揚が見られた。
- (8) 「地元企業の説明会」を実施し、自分の将来と地域との関わりについて自己理解を深めることができた。
- (9) 1月に開催した学校評議員会では、今後の実践研究の内容について、就職内定率の維持、大学等への進学率の上昇、資格検定の取組や進学講習の充実、基礎的・汎用的能力の育成など、高い期待が寄せられた。また、2月に開催した運営指導委員会において、函館工業高等専門学校におけるコミュニケーション活動などのキャリア教育の取組についての紹介があった。

5 今後の課題と解決の方策

- (1) 年度途中からの実施となったため、既に作成していた年間計画との兼ね合いもあり、先進校視察調査やリーフレットの作成など、十分に実施できなかった。
- (2) 卒業生を対象とした調査から、「高校時代に十分に身に付けることができなかったもの」として多くあげられた資質・能力に「原因を追究したり、課題を発見したりする力」「物事を論理的に考える力」「新たな発想を考え出す力」があった。これらの力を育成できるよう、学校設定科目の中で、NIEによるアクティブラーニングの実施を検討している。できるだけ早い時期に先進校の視察などを実施し、具体的計画を立案する。

就業状況調査＜質問10＞ 高校時代に身に付けることができなかった資質・技能（3つまで）



- 1 専門的な知識や技能
- 2 読み書き計算など基礎・基本的な知識や技能
- 3 コミュニケーション能力
- 4 前向きに考える力、忍耐力
- 5 原因を追究したり、課題を発見する力
- 6 働く意義や役割の理解
- 7 物事を論理的に考える力
- 8 新たな発想を考える力
- 9 意欲をもって取り組む態度
- 10 勤労観・職業観
- 11 言葉遣いやマナー、身だしなみ
- 12 その他

- (3) 卒業生を対象とした調査において、回収率が思うように上がらなかったため。回収率を向上させるための方策を校内委員会及び運営委員会で検討する。（アンケートの実施に当たり、今年度の卒業生に対しては、HR担任による事前指導を行ったことから、回収率を向上させることができた。）
- (4) 基礎的・汎用的能力の「コミュニケーション・スキル」については、学校設定科目において北海道教育大学函館校と連絡を密に取り合って連携し、ロールプレイなどのコミュニケーション・スキルトレーニングを実施する。

6 参考資料

・インターンシップ



インターンシップ報告会

